令和 6 年度　自己評価結果とりまとめ

1，評価項目の達成および取り組み状況

つくしんぼ保育所

評価項目	取り組み状況
Ⅰ、保育の計画性	・年間計画に基づき子ども一人ひとりの発見を見ながら計画を立てていく。 ・子ども一人ひとりの成長発達活動の様子を考慮し、子どもたちが楽しく興味、関心を持って取り組めるよう作成し、振り返り見直す様にしていく。
Ⅱ、保育のあり方、幼児への対応	・子ども一人ひとりの良さを認め、ありのままの姿を愛情を持って受け止めていく。 ・体調の変化や小さなサインにも気が付けるようにする。 ・一日の見通しを持って、自主的に考え行動できるように事前に流れや時間を伝える
Ⅲ、保育者としての資質や力・良識・適正	・研修等に参加し得た専門知識を保護者の相談や保育の説明に応用出来るようにする。 ・誰とでも気持ちの良い挨拶を交わしコミュニケーションを取っていく。協力、協調性を持ち「報.連.相」を基本とし保育を行う
Ⅳ、保護者への対応・守秘義務	・保育の質の向上のため、色々な積極的に学ぼうとしていく。 ・自分の保育を見直したり、他の保育士とも連携とながらよりよい保育を心がけていく ・丁寧な会話、保護者の声をしっかりと聴き、知り得た情報は外部へは話さない、持ち出さない書類等の扱いは細心の注意を払う
Ⅴ、地域の自然や社会とのかかわり	・社会的マナーや豊かな感性を育てる為にも積極的に散歩に出掛ける。 ・公園までの交通ルールや横断歩道では手を挙げるなど。 ・保育所近隣にどのような環境や自然があるのか散歩等で子どもたちと一緒に探索する。
Ⅵ、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・積極的に研修に参加し、日々の保育に活かせるようにする。 ・研修で学んだことや助言頂いたことは、できることから実践して活用していく。
Ⅶ、保育のあり方、３歳未満児への対応	・言葉にできない思いをくみ取れるよう、よく観察する。 ・ひとりひとりとスキンシップをとり信頼関係を築いていく。 ・子どもの気持ちを受け止めながら自分らしく過ごせるような保育をしていく ・クラス担任ではなくても安心してもらえるよう、 　笑顔で話し掛けたりスキンシップができる機会を大切にして、関係を築いていく。
Ⅷ、地域における子育て支援	・卒園児や地域の子どもに出会った際には、挨拶をしたり話をしたり見守る。 ・地域の方々に積極的に笑顔で挨拶をし、話しかけやすい雰囲気をつくる。
Ⅸ、食育の取り組み	・畑でトマト・きゅうり・ししとうがらし・ピーマン・バジル・ゴーヤ・大根に水やりし日々観察し育て収穫し食べる喜びを味わう。 ・乳幼児期は食べる事が楽しくなるよう雰囲気・環境づくりを心がける色々な食材との出会いを大事にし無理強いはせず食べる意欲を育む

２，これから改善したいこと

つくしんぼ保育所

評価項目	具体的な取り組み
Ⅰ、保育の計画性	・一人ひとりの子どもに合わせて計画を立てれた。 ・時間に追われることが多かったので余裕をもった保育を心がげた。 ・子どもの興味持っているものを保育に取り入れた。
Ⅱ、保育のあり方、幼児への対応	・子ども一人ひとりにあった言葉かけや援助を心掛けた。 ・子どもが見通しをもって安心して過ごせるようにゆとりをもって伝えていく。 ・急がせるような言葉掛けに注意して気をつけていきたい。 ・保育中の子どもの体調の変化に気づき対応することができた。
Ⅲ、保育者としての資質や力・良識・適正	・誰に対しても笑顔で明るく接する。 ・専門性を高めるために、専門知識や技術を身につけるとともに職員間での連携を蜜にとる。 ・気になる子どもへの対応など知識を深めたい。
Ⅳ、保護者への対応・守秘義務	・子どもについて話を保護者にする時は個人情報が漏れないように場所などを配慮する。 ・保護者の気持ちを大切にし、一緒に子どもを育てていくという共通に目標を持ち信頼関係を築いていく。 ・帳面だけで無く、できるだけ声をかけ、子どもの様子を伝えたりしながら信頼関係を築き、家庭との協力体制をとれるようにしていきたい。
Ⅴ、地域の自然や社会とのかかわり	・戸外に出る時は、交通ルールに従って安全に散歩をする。 ・自然物を見たり、触れたりしながら散歩に行く。 ・敬老の日、クリスマスには地域の方々と交流し歌や制作物をプレゼントした。 ・夢ナリエの点灯式消灯式に参加したり、地域の行事等にも参加できる時は参加した。
Ⅵ、保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	・研修を受講し、新たな視点や保育の行い方を学び、日々の保育に反映する。 ・積極的に研修に参加をし、ベテラン保育士からいろいろな事を学びたい。 ・実地研修で頂いたアドバイスはすぐに取り入れ、実行した。 ・キャリアアップ研修では他園の職員と意見交流したり、各園の子どもの様子等、知ることができた。
Ⅶ、保育のあり方、３歳未満児への対応	・笑顔で話しかけ、常に子ども達に見ているよのメッセージを届けるつもりで見守りスキンシップをとりながら信頼関係を構築していく。 ・肯定的な言葉かけをするように改善していく。 ・愛情をもって接することで安心できるような信頼関係を築く。 ・発達に差があるため、高月齢の子の活動が足りなくならないよう活動場所を分けたり、工夫する。
Ⅷ、地域における子育て支援	・地域の方に会った時は、積極的に挨拶をする。 ・ほっとステーション利用の親子が気軽に声かけできるように保育所の雰囲気づくりに努める。
Ⅸ、食育の取り組み	・自分たちで野菜を育てて収穫し食べる喜びを知る。 ・苦手な食べ物を食べようという気持ちになれるように絵本等で伝えていきたい。 ・調理保育や行事食など食材や由来などについてわかりやすく伝える。 ・個人差があるので一人ひとりの発達に合わせる。 ・正しい姿勢、お箸、スプーンの扱い方に気をつけダラダラ食べるのではなく集中して食べることを伝えていく。 ・食事の様子など伝えながら離乳食の段階を上げる等の対応をすることができた。また、食材の大きさかたさ等保育士と調理師がこまめに連携できるようにしていく。